

環境との調和

明治グループは、自らの事業が豊かな自然の恵みの上に成り立っていることを認識し、持続可能な社会の実現に貢献していきます。

明治グループ環境ポリシーを策定し、事業活動から生じる環境負荷の低減を図るとともに、環境との調和や自然との共生に努めた企業経営を実践しています。

★ マテリアリティ項目



脱炭素社会

主に貢献する
SDGs



社会課題

★ CO₂排出量の削減

私たちは、明治グループ長期環境ビジョンで「2050年までに、サプライチェーン全体でCO₂などの温室効果ガス排出量を実質ゼロにします（カーボンニュートラル）」という目標を掲げています。国際的なイニシアチブ「RE100」への加盟を予定しており、今後さらに再生可能エネルギーの活用を推進していきます。また、着実な実行に向けて、早期のSBT (Science Based Target) の認定取得を目指しています。

省エネルギー対策

➤ 取り組みの進捗は P.82 をご覧ください

高効率設備を導入し、省エネルギーを実現

明治グループは事業活動のあらゆる段階で省エネルギーに努めています。2020年度の実績として、2015年度比で約24.1%のCO₂排出量を削減しました（Scope1, 2）。生産現場において高効率設備の導入を継続的に進め、例えば、2021年4月から稼働を開始した北海道の十勝工場でのコージェネレーションシステム（出力3,200kW×2基）は、開始1カ月間で約510tのCO₂を削減しました。他方、各事業所でも省エネルギーに優れた「トップランナー制度」対象機器などを導入し、また、設備の運用改善による稼働時間短縮で省エネルギーを図っています。



(株) 明治 十勝工場 コージェネレーションシステム

再生可能エネルギーの活用推進

➤ 取り組みの進捗は P.82 をご覧ください

主要3事業所で再生可能エネルギー由来電力を利用

明治グループでは、2050年までに自社拠点での総使用電力量に占める再生可能エネルギー比率を100%にする目標を掲げています。現状では、国内外の3事業所を対象に実施（右表）。今後も目標の達成に向けて、創エネルギー活動とともに再生可能エネルギー由来電力の利用も拡大していきます。

対象事業所

事業所名	所在地
愛知工場	日本
メドライクリミテッド	インド
メドライク plc	イギリス

2020年度 エネルギー使用量および CO₂ 排出量

	国内	海外
エネルギー使用量	9,766 TJ <input checked="" type="checkbox"/>	1,674 TJ
CO ₂ 排出量		
Scope1	21.5 万t-CO ₂ <input checked="" type="checkbox"/>	2.4 万t-CO ₂
Scope2	25.4 万t-CO ₂ <input checked="" type="checkbox"/>	7.0 万t-CO ₂
Scope3	294.9 万t-CO ₂ ※	18.7 万t-CO ₂
	※ うちカテゴリ1 226.1 万t-CO ₂ <input checked="" type="checkbox"/>	

(国内)

集計対象範囲はP.85に記載しています。
エネルギー使用量は、「エネルギーの使用の合理化等に関する法律」（省エネ法）に基づき算定しています。
Scope1, 2は「地球温暖化対策の推進に関する法律」に基づき算定しています。
Scope3はサプライチェーンを通じた温室効果ガス排出量算定に関する基本ガイドラインに基づき算出しています。

Scope3集計対象カテゴリ：1.購入した製品・サービス、2.資本財、3.Scope1, 2に含まれない燃料及びエネルギー関連活動、4.輸送、配送（上流）、5.事業活動から出る廃棄物、6.出張、7.雇用者の通勤、9.輸送、配送（下流）、12.販売した製品の廃棄

カテゴリ1：食品事業及び医薬品事業に関わる主要原材料、包装用資材（紙、プラスチック、段ボール、スチール、アルミ、ビン）の購入金額に排出原単位^{*}を乗じて算出。

※ サプライチェーンを通じた組織の温室効果ガス排出等の算定のための排出原単位データベース（Ver.3.1）

(海外)

海外生産系13工場を集計しています。エネルギー使用量は、「エネルギーの使用の合理化等に関する法律」（省エネ法）に基づき算定しています。Scope1は「地球温暖化対策の推進に関する法律」に基づく排出係数を利用し、Scope2はIEA、Emissions from Fuel Combustionの排出係数を利用しています。

の付された数値は第三者保証を受けています。